

琴線 ひらがな

森野 水琴

令和四年

1

よもふけて みみそばだてる しずけさに  
ゆきのしろさも まどにうつらむ

2

ひとしれず ながめしままと きがつきて  
こころのまどに ささやきかけむ

3

いこくへと まどをひらきて ききながら  
はるかとおくに おもいよせなむ

4

あめのおと まどごしにきく ゆうぐれに  
あすははれよと ひとりいのらむ

5

まどをうつ あめのおとにも おどろきて  
まだあけそめぬ そらをながめむ

6

てんもなき ひとすじのあめ まいおりて  
こころのいずみ ことをかなでむ

7

このあめは てんとこころを むすぶみず  
かわきうるおし よみがえらせむ

8

しろいかみ くろいもじ むげんのせかい したためむ

9

ことのはが てんからおりて くるように  
すらすらと ただすらすらと したためむ

10

てんからおりた ことのはを したためて  
こえにだしては てんにとどけむ

11

びとかいた つもりがなぜか いまひとつ  
せんがたりずに なおもはげまむ

12

うつくしきもの うつくしいという あなたこそ うつくしい  
それがわかる わたしもまた うつくしい  
それだからこそ わたしたちは うつくしい  
このわひろげて みなうつくしき よになることを  
ひたすらねがう

13

こころこめ したためてこそ うつくしい  
もじによりそい ふけていくよる

14

うつくしき もじでかかれた ちしきゆえ  
まねてかいては かわきうるおす

15

うつくしく したためられた ことのはを  
かきうつしては しみさせむ

16

いてつくそらに ひがさして あたたかくなり はずむことのは

17

またひとつ いこくのひとの ことのはを  
まなびはじめて ともにはげまむ

18

そよぐかぜ このはをかなで ゆれながら  
ささやくように みみをうるおす

19

なもしれず ながれるかわの せせらぎに  
みみをかたむけ しばしたたずむ

20

すみわたる よぞらにひかる つきみれば  
わがこころにも しみることは

21

さてもこの やよいのみそらに  
なかむつまじき ふたりの きようはおひろめ  
ねがわくは とこしえに たがいのみりよくを  
こころいくまで ひきだしたまえ

22

なつまでの たのしみとせよ いよのあじ  
あたたかきしる しるひとぞしる

23

まちこがれ なつまでまでぬ いよのあじ  
みたしたあとの ちやとたのしまむ

24

なつかしき うつわにむした きようのしな  
われをわすれて あじわうほどに

25

あつきひに よみがえるのは いよのあじ  
なつかしみつつ ころなごまむ

26

まどにさす ひのまばゆさに ときめいて  
あらたなあさを きようもむかえむ

27

てんにいのる ことのはがまい はごろもを  
まとうてんによも ほほえみいかむ

28

したためた ふみのゆらぎに なごみつ  
そこはかとなく よるもふけなむ

29

うみへだて いこくのしまを ながめれば  
まぢかにせまる おそれにもにて

30

かぜにまう なみのはなこそ さきほこれ  
つかのまにとは おもわぬほどに

31

やわらかき ふでのほこびに よいながら  
したためていく ときのまにまに

32

まどべにと よりそうひとのおもかげに  
なつかしみては あきもくれなむ

33

こえださず ことのはのみを ひびかせて  
きこえるがまま ただしたためむ

3  
4

あきのよを しおりかたてに ほほえみて  
ふみよまむかな はてるともなく

3  
5

ひびくおと したためたほん よみながら  
しおりにぎりて ゆらぐころを

令和五年

3  
6

めぐりあい ひさかたぶりの よろこびに  
たえなるしらべ ともときくらむ

3  
7

おりてきた ひとのことは ききながら  
わすれたひびき おもいださなむ

3  
8

おんまえで ともとまいたり あてやかに  
てんもよろこび ひとすじのあめ

3  
9

てのひらに ひとひらのゆき まいおりて  
さもひそやかに ささやきかけむ

4  
0

ひとふゆを なごりおしみて ふるゆきも  
すだちをめでて はなとなるらむ

4  
1

わかれても たがいのさちを いのりつつ  
またあわむとぞ ともにちかはむ

4  
2

みわたせば まんかいのはな さきほこり  
ひとのこころも さくらにそめむ

4  
3

おだやかな はるのひかりに ゆれながら  
とりのすだちを みてほほえまむ

4  
4

まいおりる さくらふぶきに みをまかせ  
かがやくみちを ともとあゆまむ

4  
5

まちわびた まつりにぎわい はなやかに  
はつかおあわせ ともとなるらむ

4  
6

はげしかる あめふりしきる おとをきき  
しずかにひびく ことをまつらむ

4  
7

もりにあり のにもありなむ みずのこと  
てんたかくまで かなでられたし

4  
8

あめあがり ながむるそらに かかるにじ  
さだめのみちを ともにあゆまむ

4  
9

うららかに ひざしをあびて さきほこる  
あきのさくらが ほほえみゆらぐ

5  
0

いきいそぐ なかれとかぜに おしえられ  
ちからをために しばしやすまむ

51

ことのはの つづきをいつも まつともに  
おりてきたりと すぐにとどけむ

52

あおみます うすむらさきに いのりつつ  
ときのめがみよ あわせたまはむ

53

あかみます うすむらさきに いろづきて  
あいしよろこび ころろにしみる

54

あさぼらけ そよふくかぜに ゆれながら  
まいつづけるや くさのしらつゆ

55

まどのゆき そこはかとなく ふりつもる  
しおりかたてに ひびききくらむ

56

やまとうた ふみとおととを ともとして  
ことのはかなで ふみのはなさく

令和六年

57

このごろは ひとのこころも やわらぎて  
ともにあそばむ ときのまにまに

58

かぜかおる はるのおとずれ めでながら  
あふれるおもい したためるらむ

5  
9

にわみれば はなさきほこり あげはまう  
のどけきひびに ころなごまむ

6  
0

さくまでの きたいふくらむ つぼみみて  
いまかいまかと ひもくれるらむ

6  
1

よがふけて かぜがささやく ことのはに  
つきのひかりが おりてくるかな

6  
2

かぜかおる そよぐことのは ことほげば  
ほほえみながら ころなごまむ

6  
3

あめのおと やみてあけたる そらみれば  
にじのかけはし ひかりかがやく

6  
4

かぜかおる はなのみやこに あてやかな  
きそいしもの ゆめかなうらむ

6  
5

みあげれば またたくほしの かなたより  
おくられしもの ころにしみる

6  
6

いくたびも からだにきずを うけるとも  
ころみがついて ちなおるらむ

6  
7

たおやかに さらにやわらぐ ことのはが  
いまひとたびと つつみこむかな

68

やまとうた もりにものにも ひびかせて  
みずがかなでる こととなりけり

69

ことのはに つきのひかりが ほほえみて  
うちからみがく ひかりとならむ

70

かぜかおる きんもくせいを はこびつつ  
みのりのあきを しらしめるらむ

71

さてもこの かななづきに てんにめされる ひとののこした  
めぐみをみなで はぐくみたまえ

72

かぜかおる ともをてんへと いぎないて  
のこれるひとを われはそだてむ

73

くらのとを あけてまばゆい ひかりあび  
みあげるそらに にじのかけはし

74

ことのはに つきのひかりを うけながら  
つどいしものが ふみ したためむ

75

まちこがれ たずねしうみは ゆうぐれの  
あかとくろとに なみがなくらむ

76

ほしにむけ おくるまなざし なごみつ  
ひとをはげまし はぐくむころ

令和七年

77

ときをこえ てんまでとどけ ことのはよ  
むつきのみそら ゆめかないたり

78

ときをこえ てんにもとどく ことのはは  
はれやかなりと ゆめにみるらむ

79

ひとしれず さくはなをめで なごむとき  
またあいたしと おもうころよ

80

このはなを まもりたいとて かようひび  
またくるはるも さきほころせむ

81

おだやかな ひざしをあびて さくはなの  
ほほえみをみて ころなごまむ

82

そよかぜが はこぶしらべに みみをたて  
よりいきいきと はずむころよ

83

にねんぶり かんだのみこし かつぎみる  
おとめのなみだ ころをあらう

84

わがふみを よむこえをきき ほほえみて  
さらにつづきを したためるかな

85

あけ方の わすれなくさに ことよせて  
ふみにしたため すぐにとどけむ

86

このこえが とどけばよしと いのりつつ  
ふるえなくよの ころのひびき

87

はだにふれたら つみになるなら  
ころにふれて あいとせよ

88

ささのはが ことのはとなり ことほぎて  
すみれのまにも ことねのひびき

89

なやみつ つ ふるえなくよの ひところ  
みそひともじで つかみとるらむ

90

あおじろき ひかりをあびた せつなさに  
ただなきぬれて おもうころよ

91

もろともに りんとたたずみ ひかりあび  
なおもすすまむ たゆむことなく

92

このよでの あいしよろこび たずさえて  
みちゆきのはて はなのちるらむ

93

くらやみに さまようひとを いくくしみ  
つひにみあぐる ありあけのつき

9  
4

ありあけに いまひとたびの いとなみを  
いとたぐりよせ つづけられまし

9  
5

そよぐかぜ たたずむひとに かをはこび  
まつみのおもい わすれなぐさに

9  
6

くもいとの かわすことのは ききながら  
なおもさそわむ わがあかいとに

9  
7

あおじろき ひかりにこよい よりそえば  
うすむらさきの いのりとならむ

9  
8

まつことの ながきにたえて なおもまつ  
よるもいよいよ ながくなるらむ

9  
9

しのばずに いろにでにけり このおもい  
あおじろきまで うすむらさきに

1  
0  
0

あかねさす うすむらさきに みをよせて  
あらたなひかり てらすわがみよ

1  
0  
1

ふみをおくりて とどかぬときは  
みずからはしり ちそうせよ

1  
0  
2

やまとうた したからうえに よみあげて  
あらたなかぜを ふきおこすかな

103

やまとうた ひとりはずまべに たたずみて  
 あらたなひびき なみのまにまに

104

うたをかえすは くげのたしなみ  
 ふるえるままに あてやかに

105

さきほこる はなながめても ゆうやみの  
 さくらづきよに なほはるをまつ

106

みわたせば かぜのまにまに くもはしり  
 ときによるなみ このれいめに

107

ながからむ あしのもとにぞ かいまみる  
 すがおのままの よるのしずけさ

108

こよいまた わすれなぐさに ことよせて  
 ふみよむつきを かさねあわせむ

109

ゆうやみに はえるつばさを ならべとぶ  
 つがいのとりを めでるころよ

110

ことともに てんにめされる そのいのち  
 つらぬきとおす ものふのみち

111

ひととせの ときのまにまに したためし  
 ふみをささげむ てんのともへと

112

こよいあなたと あえるのならば  
かわいたところ だかれない

113

ひえこむよるに であつたからは  
もえるところで あたためむ

114

おもいわび ねむれぬよるを すごしてや  
まぶたにうかべ ときのまにまに

115

おもいでのことよせ つれづれに  
おりにふれては ともにかたれよ

116

うたたねの さめたわがみに こちよく  
うるおいゆくは ころのかわき

117

しずけさに ふけゆくよるに ひとりよむ  
あらたなひびき とわにかがやけ

118

さみしくも ときめくがまま よごとまう  
あさまでもとは いうまでもなし

119

やまいなおして あいたいものを  
くすりにがくて のめやせぬ

120

くちにふくんで あまくするから  
くちびるかさね のめばいい

121

ときめきが せをつたいつつ いくくしみ  
あかねのそらに ひびきわたらむ

122

ときめきが せをつたいつつ いくくしみ  
ゆびからませて あいはふくらむ

123

あかねいろ こいしほほいろ きみおもひ  
あおきつきよに ときめきひびく

124

ひびくうた こころのなかに だきしめて  
るりのかがやき てんまでとどけ

125

にしのちに みずのことをば ひびかせて  
かけぬけるかな ゆめのやまとじ

126

ふくかぜの さむさにまけず もえさかる  
あつきことのは こころのひびき

令和八年

127

いとおしい ちいさきてをば にぎりしめ  
ともにはしらむ やすみのあさに

128

こよいまた あらたなひびき めでながら  
ただよつていく ときのまにまに

1 2 9

ながされぬ つよきおもいを むねにひめ  
はてることなく あつくまつひび

1 3 0

おとにきく くるしむひびき うけとめて  
いまこのときに はらひたまはむ

1 3 1

うたをよみ げんきにはしる なぞのきみ  
あつきおもいを だれにとどけむ

1 3 2

ただように あかねのこえに よるはそみ  
あかつきをまつ かぜのまにまに

1 3 3

かおるかぜ あけゆくそらに とどけむと  
さもあてやかに たちのぼるかな

1 3 4

なみださえでぬかなしみになまえなし  
よぶによべねど さがすきみのな

1 3 5

よごとしる はだのぬくもり いだきつつ  
あかねのそらに まうをみるらむ

1 3 6

ふりつづく やらずのあめが やんだとき  
あかつきにみる にじのかけはし

1 3 7

あかねみゆ そらながめては なきぬれる  
いかでこのよを まちこがるかな

138

うすれゆく おもいをいまに とどめむと  
くりかえしては ことのはつむぐ

139

わがむねに かおうずめては なくがよい  
ひるともいわず よるともいわず

140

さみしさも なかばになりぬ よりそえば  
よろこびゆえに ふやしつづけむ

141

あかねます こきいろをみて ほほえまむ  
まみえるときに かたらうために

142

なきどころ そなえしものが つどいては  
よごとまちつつ あげるときまで

143

さむいあさ おもいをよせる ゆきぐには  
ゆきもふかいが なさけもふかい

144

ゆきみちを かえりいろりを なつかしみ  
あついとんじる かこんでいこう

145

ゆきみちを かえりいろりを なつかしみ  
こころのもつれ ゆきにとけこむ

146

うつくしき こえがひびきし ゆきのそら  
しろきいろさえ こころにとどく

147

りんとしたうしろすがたにみとれつつ  
こえひびかせる るりいろのそら

148

るりいろの そらをみあげし きみおもう  
まばゆいひかり つつむがごとし

149

よもすがら よみふけるひと おもうたび  
ほのおのごとく なおもはしらむ

150

はらはらと ながれるなみだ しんしんと  
こころにひびく ゆきのまにまに

151

みるひとの よろこぶこえが ひびくなか  
ほほえみながら さきほこるはな

152

ゆうぐれの かわのながれに そよぐかせ  
すずをゆらして すずしくひびく

153

ひととせの みのりをめでて つむがれる  
ひびきをてらす つきのひかりよ

154

したためた ふみにこめたる おもいをば  
しきおりおりに ひびかせるらむ

155

こころよう ががくがながれる つきみざけ  
あかねさすそら なごりおしまむ

156

かなでるは ころのおとが みちしるべ  
つきにてらされ いざなうひびき

157

いくさきの みのりおおきを いのりつつ  
みおくるあさの まばゆいひかり

158

やまとうた みそひともじの よろこびが  
ころにひびく むかしもいまも

159

まいつづく よるのまにまに ことのはが  
まぶたとじれば あやかしとなる

160

ゆきがまい こよいかなでる はなしらべ  
ほほえみながら てらすつきかな